

令和7年2月 22 日

田中先生の逝去を悼んで

昭和 54 年卒 佐々木 朗

15歳、念願の函館東高校に入学。木造ボロ校舎の道路側の角が私の教室1年 A 組でした。国語佐竹先生、数学遠藤先生、理科吉野先生、社会坂本先生、英語田中先生、美術梅谷先生、体育田中先生、覚えているもんですね。

今朝の新聞を見て、田中先生が亡くなったことを知りました。田中先生は、英語のリーダーの先生でした。私は3年間、田中先生に英語を習いました。

私自身、英語の教員も経験したわけですが、大きな影響を受けた先生の一人です。小学校から高校卒業まで面倒をみてくださった学習塾の高月先生、中学校の時の担任でもあった荒木先生、そして高校時代にお世話になった田中先生、そんな恩師のおかげで、今の私があることは確かです。

田中先生は、けっこう厳しい先生でした。当たり前なのかもしれませんが、必ず予習をしてこななければなりません。次の授業で学習する本文をノートに書き、わからない単語を調べ、どのような意味になるか、訳も書いていきました。もう一つ特徴的なことがありました。本文の暗記です。本文のうち大事な構文を含むいくつかの文を暗記するのです。そして、授業が始まる前に、前回暗記するように言われたところを当てられた何人かが発表するのです。

ノートにたくさん書き、そして暗記もある

ということで、英語の授業は、結構大変でした。それは私だけではなく、おそらくみんな苦労したんだと思います。

その暗記ですが、今となっては、とても良かったと思います。例えば「not only A but also B (A ばかりではなく B もまた)」などという定型文がありますが、これは今でも記憶がありますが、この構文、すらっと今でも会話で出てくるのです。(そんなにそんなにそのような機会があるわけではありませんが)。大事な文を何回も何回も口ずさむっていかに大切なことか、後になって感じます。

前述しました高月先生や、荒木先生にも鍛えられていたおかげで、田中先生の厳しい授業にもなんとか付いていけました。私の通った函館東高校は、まあまあの進学校でありましたので、いくら中学校で得意だったとは言え、私と同じレベルぐらいの仲間ばかりで、周りはみんなライバルでした。そんな中ではありましたが、英語が好きな、そして得意な教科のまま、高校も卒業できたのは田中先生のおかげです。

田中先生は、私の発音をほめてくれました。時々、私の暗記したセンテンスの発表に「アキラの今日の抑揚は、なかなかいいぞ。」と。また、ダメな時はしかられました。それでも、田中先生にしかられても、「がんばらなきゃ。」と思うような言い方でした。厳しさと愛があった先生でした。田

中久先生という名前で、愛称は「タナキュー」でした。先生の前ではそう、呼ぶことはありませんでしたが、「今度のタナキューの授業ね・・・」などは日常会話でした。

田中先生も北海道教育大学(当時北海道学芸大学)のご出身で、同窓会である「夕陽会(せきようかい)」では、お会いすることも度々ありました。私が夕陽会のホームページを担当していて、よくあっちこっち取材に行ったこともあったからだと思います。

もう30年以上も前になりますが、私が、恵山町(現在は函館市)の東光中学校の英語の先生になったことを報告すると、とっても喜んでくれました。その時の田中先生の表情は今でも覚えています。卒業して、かなりの年月が経ったにもかかわらず、「アキラ、がんばっていたもんな。」と私のことは、覚えていてくださいま

した。

その後も、年に一回の夕陽会の集まりでしたが、田中先生とお会いしたのは、数年前が最後となってしまいました。

函館東高校で英語教育に情熱をかけてくださった田中先生には、感謝の気持ちでいっぱいです。英語の教員免許を取ることができたのも、中学校の英語の先生をやれたことも、田中先生のご指導があったからこそのことだなあと振り返ります。

田中先生ほどの教育者にはなれませんでした。今でも英語は好きですし、英語に触れる機会は、大切にしていきたいと思います。

田中久先生(享年 89 歳)、ありがとうございました。

2025/2/22 佐々木 朗